

第4次福山市上下水道事業経営審議会（第1回）次第

日時：2023年（令和5年）10月31日（火）午前9時30分～

場所：中津原浄水場 水質管理センター2階 会議室

1 開 会

2 任免通知書（委嘱状）の交付

3 上下水道事業管理者挨拶

4 審議会委員及び上下水道局職員自己紹介

5 議 事

（1）会長及び副会長の互選

（2）審議会の目的

（3）上下水道事業の経営状況について

（4）福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）後期実施計画の 進捗状況について

（5）施設見学（中津原浄水場）

6 閉 会

福山市上下水道事業経営審議会委員及び上下水道局出席者名簿

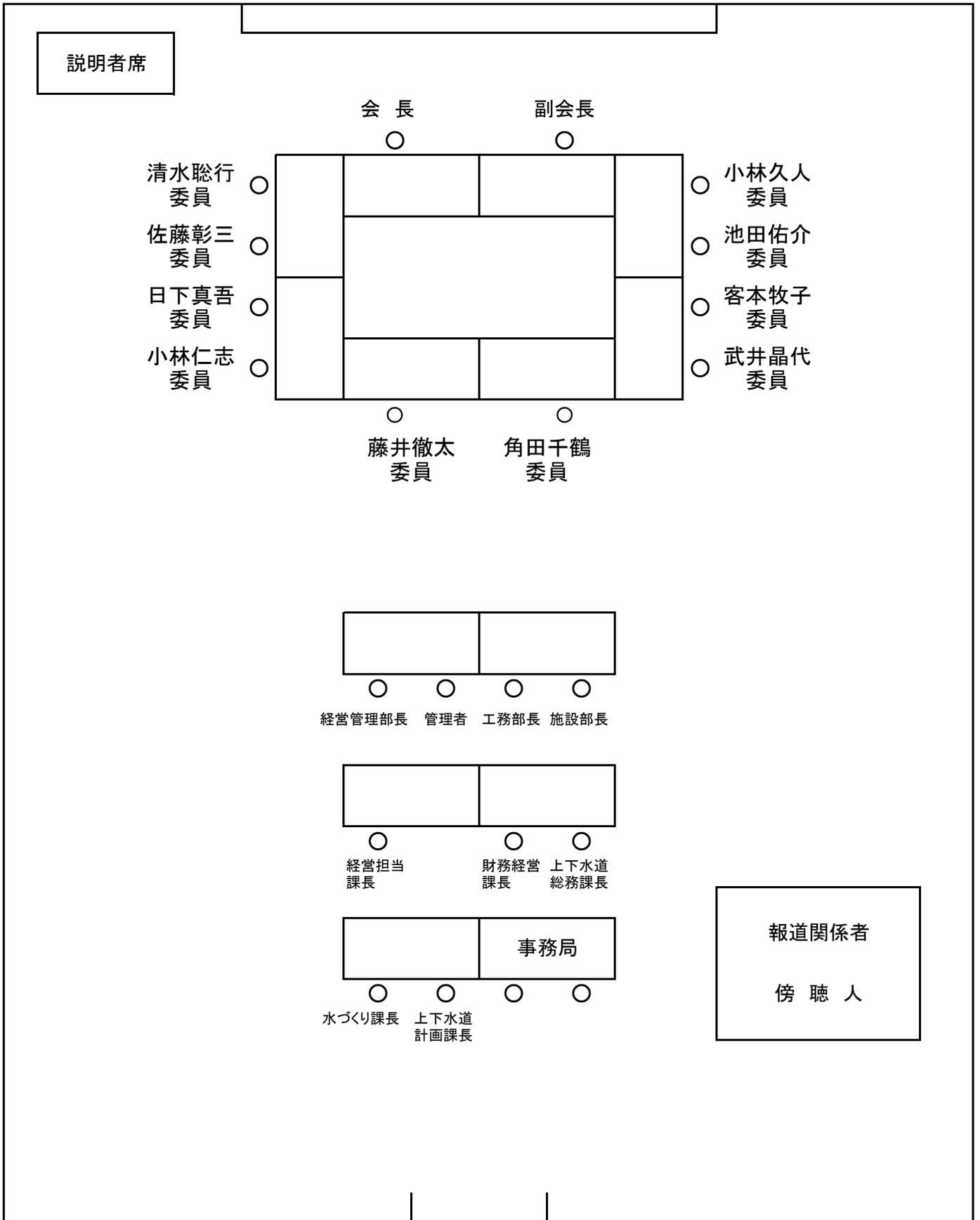
1 福山市上下水道事業経営審議会委員

項目	所属大学・団体等	役職・名前	
学識経験を 有する者	福山市立大学	都市経営学部准教授 清水 聡行	
	福山大学	経済学部教授 佐藤 彰三	
	公認会計士日下真吾事務所	公認会計士・税理士 日下 真吾	
水道又は下水道 の使用者	福山商工会議所	専務理事 小林 仁志	
	福山市社会福祉協議会	会長 藤井 徹太	
	連合広島福山地域協議会	事務局次長 小林 久人	
	池田法律事務所	弁護士 池田 佑介	
	公募委員		客本 牧子
			武井 晶代
		角田 千鶴	

2 上下水道局出席者

所属・役職	名前
上下水道事業管理者	小林 巧平
経営管理部長	卜部 光央
工務部長	柚木 紀生
施設部長	嶋田 佳樹
経営管理部上下水道総務課長	赤木 学
経営管理部財務経営課長	安部 光記
経営管理部財務経営課経営担当課長	稲岡 崇
工務部上下水道計画課長	箱田 雄一
施設部水づくり課長	堀内 雅宏
(事務局)	
経営管理部財務経営課次長(経営企画担当)	久永 慎介
経営管理部財務経営課	神原 勝明

第4次福山市上下水道事業経営審議会(第1回) 配席図



**第4次
福山市上下水道事業経営審議会
(第1回)**

2023年（令和5年）10月31日

審議会の目的

(1) 設置目的 (条例第1条)

・非常に厳しい経営環境の中で、上下水道事業のあるべき姿について、学識経験者や上下水道の利用者に、中長期的な視点で経営全般にわたって議論していただき、今後の事業経営に反映していくために設置したもの。

⇒福山市上下水道事業経営審議会条例 (2015年3月18日 市議会において可決)

(2) 所掌事務 (条例第2条)

審議会は、上下水道事業管理者の諮問に応じ、上下水道事業の経営に関する事項について審議し、意見を答申する。

⇒会長が必要と認めるときは、審議会に部会を置くことができる

(3) 審議会の委員 (条例第3条)

◇委員10人以内で組織する (任期 : 2年)

- ・学識経験を有する者
- ・水道又は下水道の利用者

第4次福山市上下水道事業経営審議会 (第1回)

上下水道事業の経営状況について

2023年(令和5年)10月31日
福山市上下水道局 財務経営課

目次

- 1 水道事業の経営状況 [2022年度（令和4年度）]
- 2 工業用水道事業の経営状況 [2022年度（令和4年度）]
- 3 下水道事業の経営状況 [2022年度（令和4年度）]
- 4 上下水道局における取組

1 水道事業の経営状況

(1) 年度別の主要統計

項目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)
行政区域内人口(人)	468,380	467,837	465,402	461,664	459,160
給水区域内人口(人)	467,958	467,476	465,054	461,319	458,977
給水人口(人)	448,069	447,786	445,625	442,243	440,225
給水世帯数(世帯)	201,139	203,336	204,606	204,621	206,452
配水量(m ³)	50,544,633	50,141,334	50,159,495	49,024,269	49,019,422
有収水量(m ³)	47,324,499	47,482,190	47,719,161	46,967,298	46,539,730
給水人口普及率(%)	95.7	95.8	95.8	95.9	95.9
有収率(%)	93.6	94.7	95.1	95.8	94.9

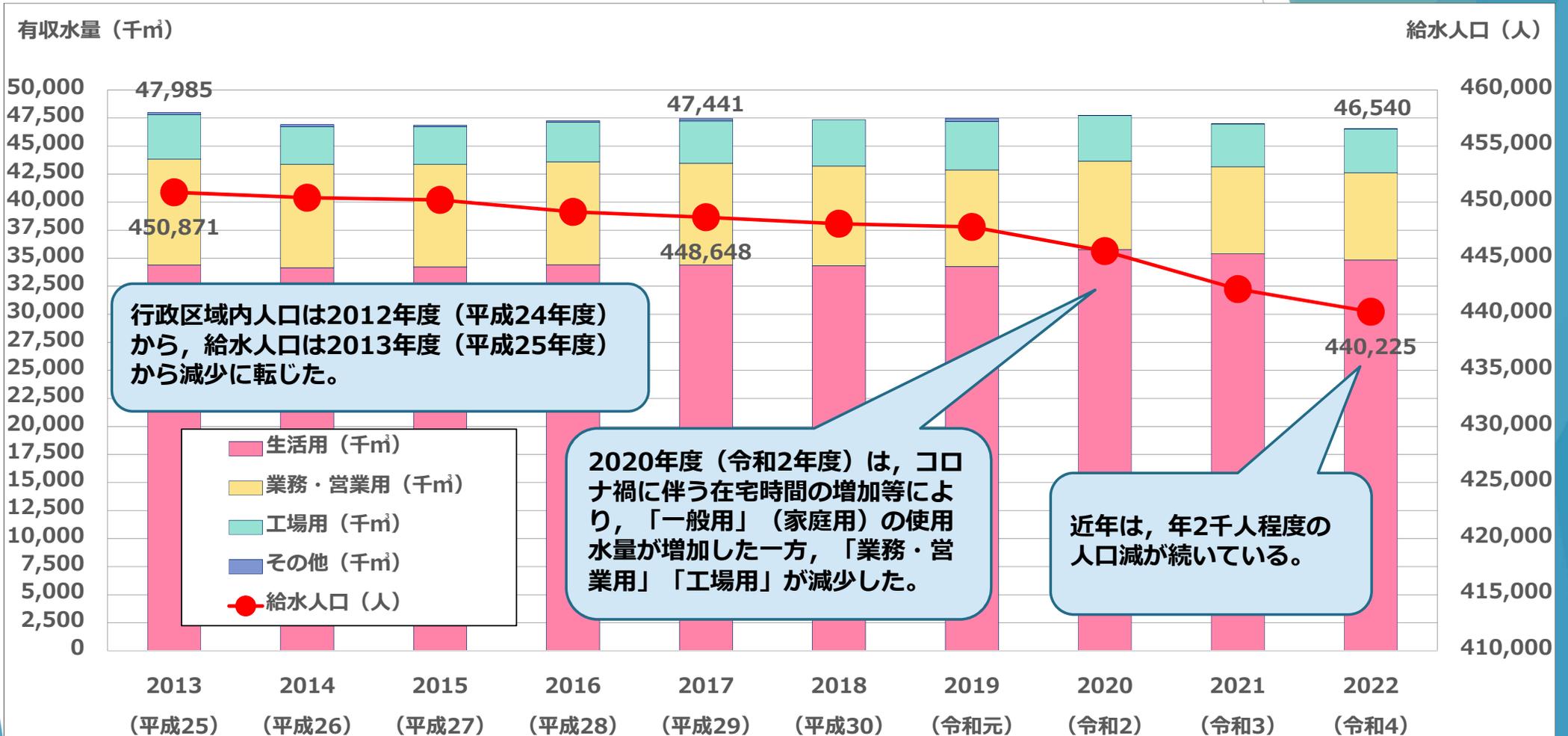
※有収水量：料金徴収の対象となった水量

給水人口普及率：給水人口÷給水区域内人口×100

有収率：有収水量÷配水量×100

1 水道事業の経営状況

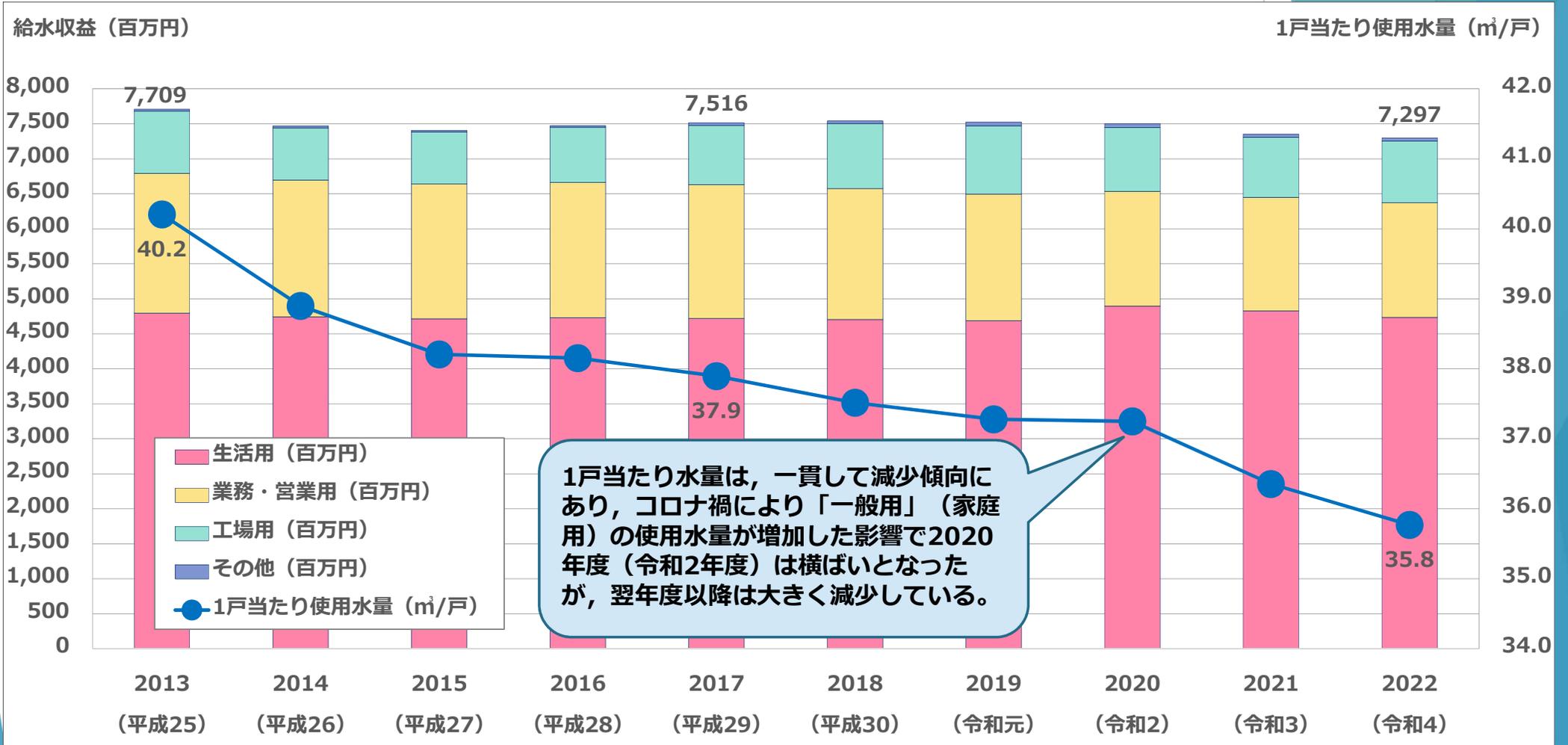
(2) 有収水量・給水人口の推移



1 水道事業の経営状況

(3) 給水収益・1戸当たり使用水量の推移

※戸数は、定期調定分のみ（随時調定除く）
水道料金の見直し：2015年（平成27年）3月1日
（基本水量制の廃止など）



1 水道事業の経営状況

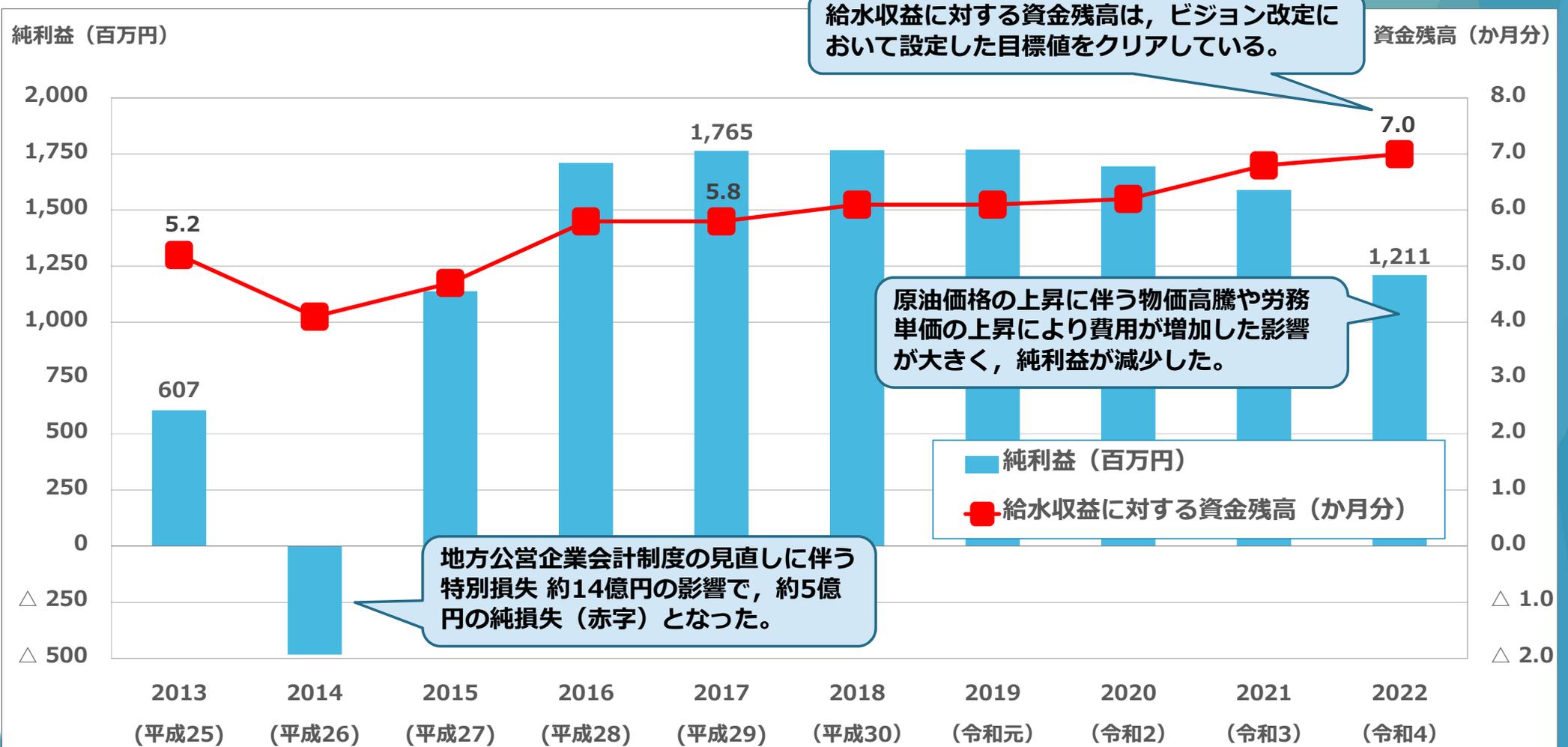
(4) 年度別の決算状況

(単位：千円)

科 目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)
事業収益	8,508,895	8,502,485	8,456,366	8,278,549	8,381,230
(うち給水収益)	(7,540,862)	(7,525,026)	(7,502,996)	(7,353,352)	(7,296,697)
事業費用	6,740,519	6,731,722	6,760,340	6,688,203	7,170,376
差引	1,768,376	1,770,763	1,696,026	1,590,346	1,210,854
資本的収入	1,751,735	1,609,994	1,605,640	1,759,035	2,351,845
資本的支出	6,279,277	6,430,216	6,396,095	6,065,415	6,653,022
差引	△ 4,527,542	△ 4,820,222	△ 4,790,455	△ 4,306,380	△ 4,301,177
収入総計	10,260,630	10,112,479	10,062,006	10,037,584	10,733,075
支出総計	13,019,796	13,161,938	13,156,435	12,753,618	13,823,398
差引	△ 2,759,166	△ 3,049,459	△ 3,094,429	△ 2,716,034	△ 3,090,323
補てん財源等	2,978,818	3,039,024	3,160,663	3,017,638	3,160,861
再差引	219,652	△ 10,435	66,234	301,604	70,538
前年度末資金残高	3,619,717	3,839,369	3,828,934	3,895,168	4,196,772
当年度末資金残高	3,839,369	3,828,934	3,895,168	4,196,772	4,267,310

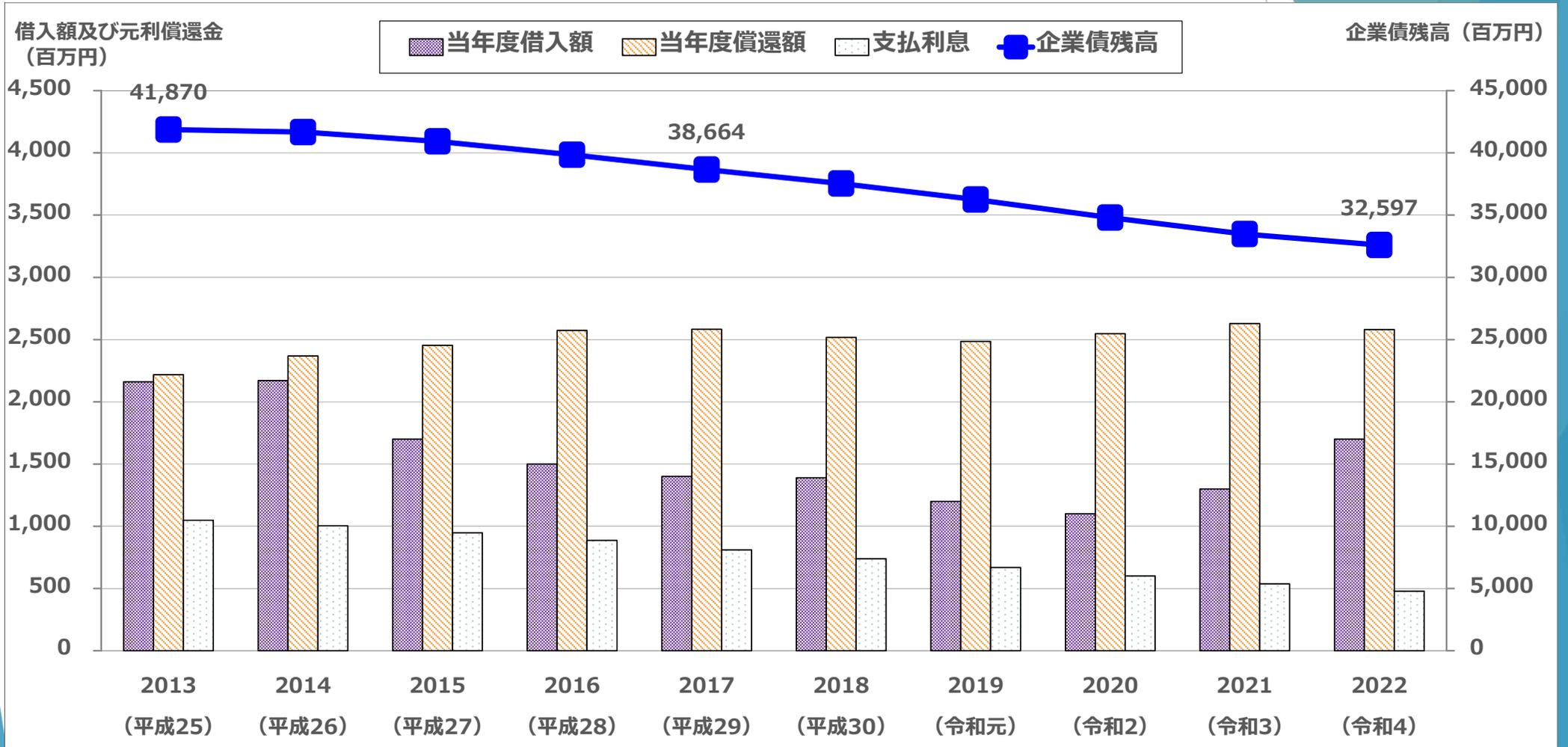
1 水道事業の経営状況

(5) 《個別指標》 当年度純利益・給水収益に対する資金残高の推移



1 水道事業の経営状況

(6) 企業債・支払利息の推移



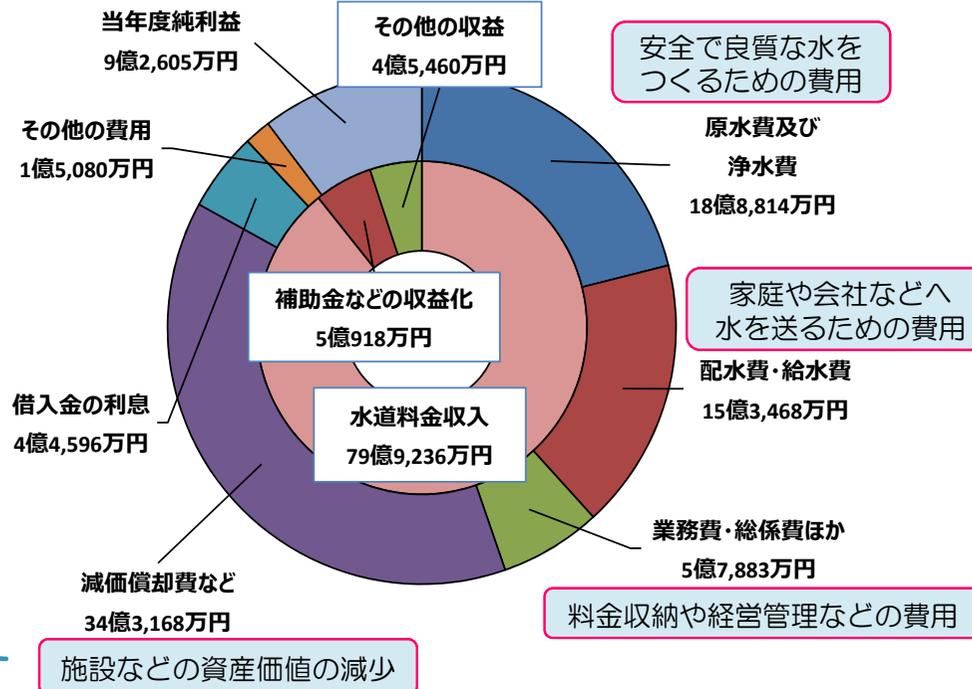
1 水道事業の経営状況

(7) 2023年度（令和5年度）予算 収益的収支・資本的収支

収益的収支（消費税込）

収益的収入 89億5,614万円

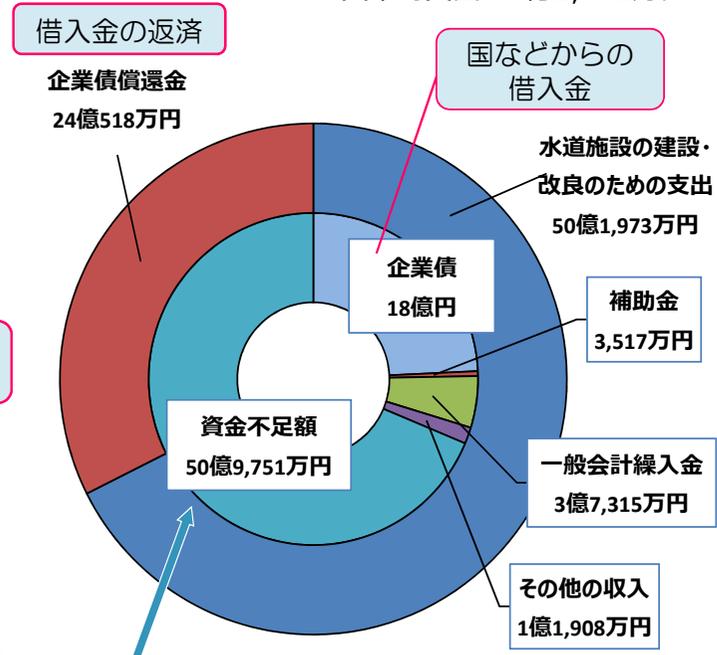
収益的支出 80億3,009万円



資本的収支（消費税込）

資本的収入 23億2,740万円

資本的支出 74億2,491万円



補てん財源

1 水道事業の経営状況

(8) 2023年度（令和5年度）における主要施策

項 目	事 業 概 要	主 な 工 事
配水管整備事業 (第九次)	<ul style="list-style-type: none"> ・配水管が大量更新時期を迎える中、計画的・効率的な更新に併せ、耐震管へ布設替えすることにより、地震等災害に強い水道施設の整備、漏水・濁水の未然防止を図る。 ※第九次分は、2022年度（令和4年度）を初年度とする5か年の継続事業 	<ul style="list-style-type: none"> 【総事業費】 2,885,000千円 ・配水管整備工事 延長 約35km (基幹管路・重要管路及び漏水等の事故履歴の多い管路を重点的に) ※5か年の総事業費 約160億円 更新総延長 約180km
水道施設の耐震対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地震等の災害によって機能が停止した場合、市民生活や社会経済活動に与える影響は甚大なものとなることから、災害発生時の被害を最小限に抑えるため、災害に強い施設整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢丘A配水池法面崩壊対策工事 (令和4年度・令和5年度) 80,000千円 ・東村配水池更新詳細設計業務 12,166千円
施設改良事業	<ul style="list-style-type: none"> ・浄水場やポンプ所の機械設備等の更新を行い、安定給水の確保と事故防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千田浄水場監視制御設備取替工事 (令和4年度・令和5年度) 560,810千円

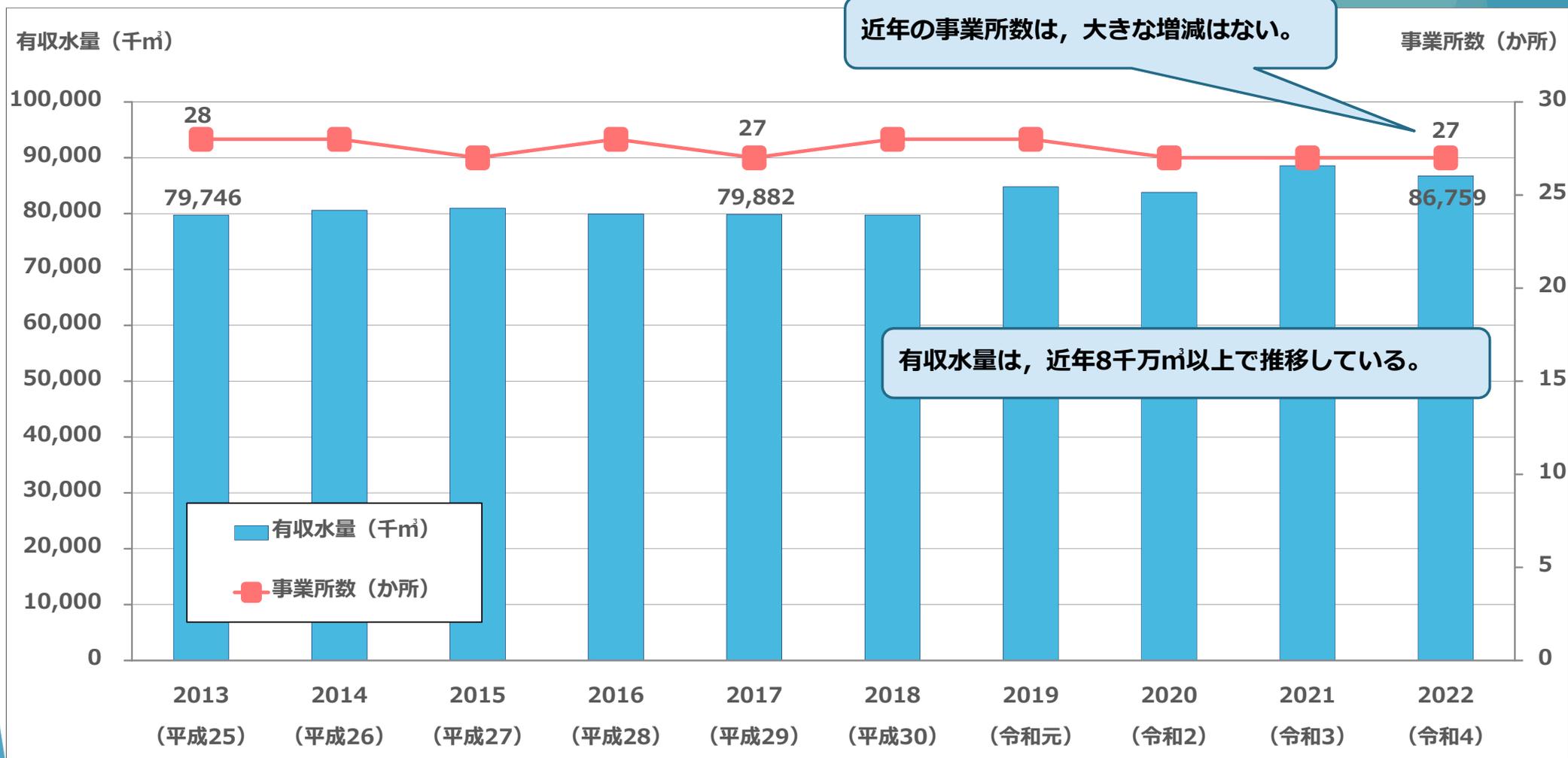
2 工業用水道事業の経営状況

(1) 年度別の主要統計

項目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)
給水事業所数(か所)	28	28	27	27	27
計画給水量(m ³ /日)	338,000	338,000	338,000	338,000	338,000
契約水量(m ³ /日)	227,325	227,325	235,025	235,025	244,025
取水量(m ³)	81,006,035	86,020,222	85,140,844	89,760,975	88,115,117
配水量(m ³)	80,429,903	85,421,094	84,518,805	89,191,425	87,469,073
有収水量(m ³)	79,737,864	84,801,635	83,814,282	88,567,873	86,758,957
有収率(%)	99.1	99.3	99.2	99.3	99.2
日最大配水量(m ³)	266,893	268,423	265,723	276,301	263,689
日平均配水量(m ³)	220,356	233,391	231,558	244,360	239,641

2 工業用水道事業の経営状況

(2) 有収水量・給水事業所数の推移



2 工業用水道事業の経営状況

(3) 年度別の決算状況

(単位：千円)

科 目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)
事業収益	3,030,753	3,178,971	2,889,678	3,046,903	2,978,806
(うち給水収益)	(2,769,364)	(2,924,356)	(2,646,699)	(2,754,646)	(2,650,295)
事業費用	2,245,636	2,095,709	2,120,047	2,092,106	2,366,138
差引	785,117	1,083,262	769,631	954,797	612,668
資本的収入	159,300	11,046	104,280	2,042	59,702
資本的支出	1,424,478	1,052,309	1,103,611	982,893	1,081,155
差引	△ 1,265,178	△ 1,041,263	△ 999,331	△ 980,851	△ 1,021,453
収入総計	3,190,053	3,190,017	2,993,958	3,048,945	3,038,508
支出総計	3,670,114	3,148,018	3,223,658	3,074,999	3,447,293
差引	△ 480,061	41,999	△ 229,700	△ 26,054	△ 408,785
補てん財源等	1,165,471	857,788	878,031	865,736	888,487
再差引	685,410	899,787	648,331	839,682	479,702
前年度末資金残高	5,162,706	5,848,116	6,747,903	7,396,234	8,235,916
当年度末資金残高	5,848,116	6,747,903	7,396,234	8,235,916	8,715,618

※工業用水道料金改定：2020年（令和2年）7月1日（平均改定率△8.9%）

2 工業用水道事業の経営状況

(4) 2023年度（令和5年度）における主要施策

項 目	事 業 概 要	主 な 工 事
配水管 整備事業 (第九次)	(水道事業と共通) ・配水管が大量更新時期を迎える中、計画的・効率的な更新に併せ、耐震管へ布設替えすることにより、地震等災害に強い水道施設の整備、漏水・濁水の未然防止を図る。	【総事業費】 1,006,000千円 ・配水管布設工事 延長 約2km ※5か年の総事業費 約43億円 更新総延長 約8km
水道施設の 耐震対策	・地震等の災害によって機能が停止した場合、市民生活や社会経済活動に与える影響は甚大なものとなることから、災害発生時の被害を最小限に抑えるため、災害に強い施設整備を行う。	・中津原浄水場2系南沈澱池機械設備取替工事 (令和5年度・令和6年度) 134,498千円
施設改良 事業	・浄水場やポンプ所の機械設備等の更新を行い、安定給水の確保と事故防止を図る。	・中津原浄水場工業用水導水管洗堀対策工事 (令和5年度・令和6年度) 110,700千円

3 下水道事業の経営状況

(1) 年度別の主要統計

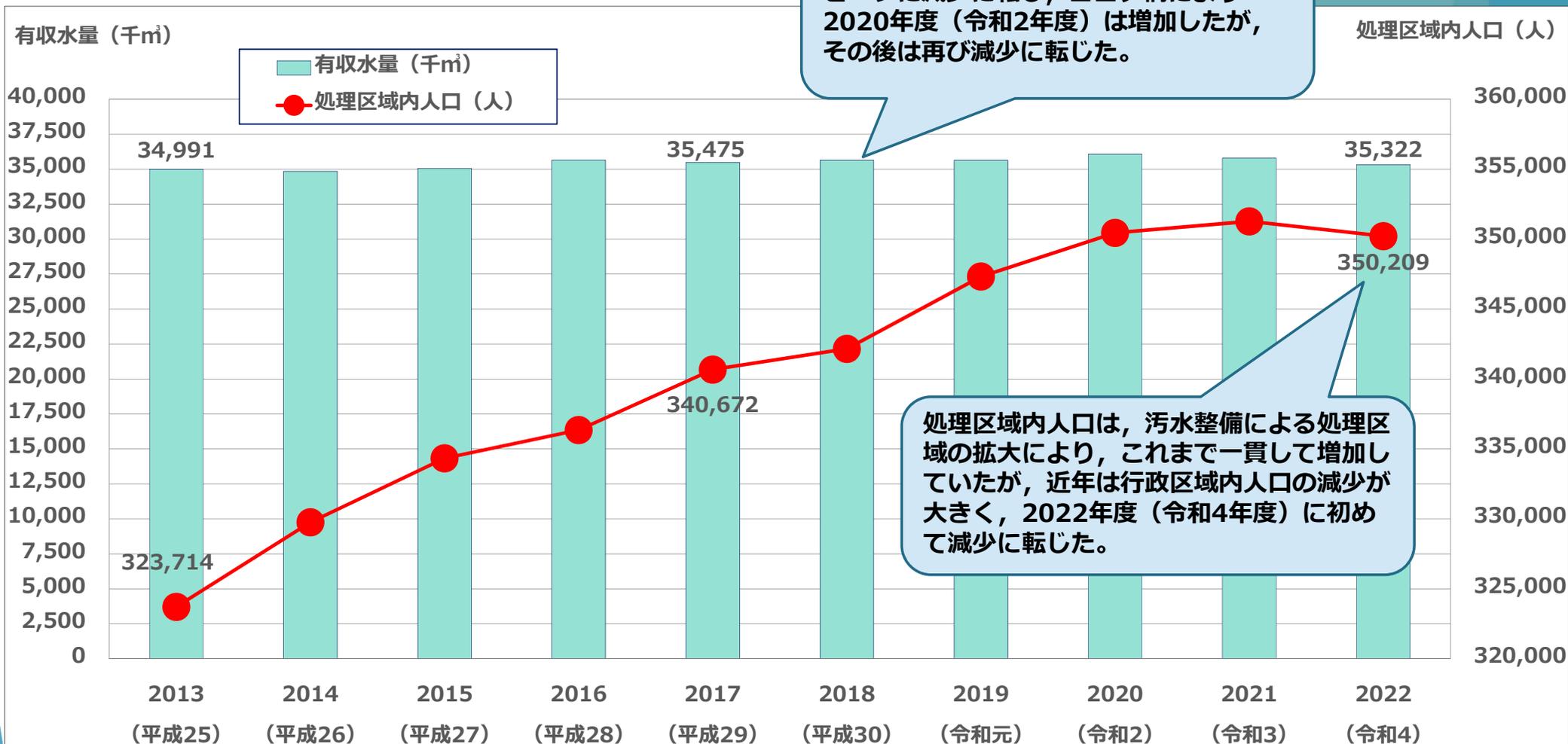
項目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)
行政区域内人口(人)	468,380	467,837	465,402	461,664	459,160
処理区域内人口(人)	342,152	347,322	350,448	351,267	350,209
水洗化人口(人)	321,324	327,536	332,295	334,436	334,327
人口普及率(%)	73.1	74.2	75.3	76.1	76.3
水洗化率(%)	93.9	94.3	94.8	95.2	95.5
汚水処理水量(m ³)	41,439,136	39,361,810	41,431,764	40,773,620	37,593,016
有収水量(m ³)	35,632,028	35,625,984	36,066,649	35,780,280	35,321,734
有収率(%)	86.0	90.5	87.1	87.8	94.0

※処理区域内人口：下水道を使用することができる人口
水洗化人口：下水道に接続している人口

人口普及率：処理区域内人口÷行政区域内人口×100
水洗化率：水洗化人口÷処理区域内人口×100

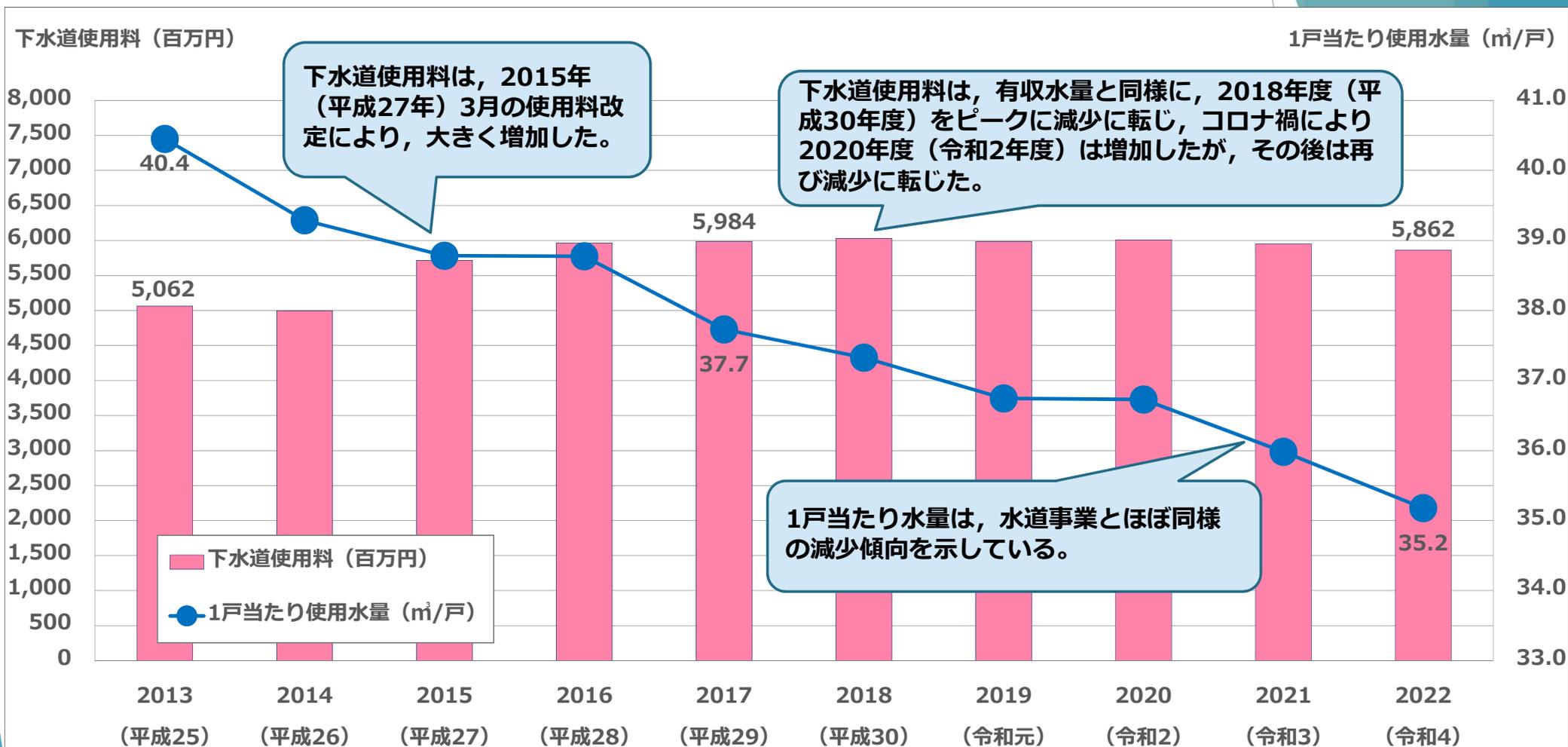
3 下水道事業の経営状況

(2) 有収水量・処理区域内人口の推移



3 下水道事業の経営状況

(3) 下水道使用料・1戸当たり使用水量の推移



※下水道使用料改定：2015年（平成27年）3月1日（平均改定率16.56%）

3 下水道事業の経営状況

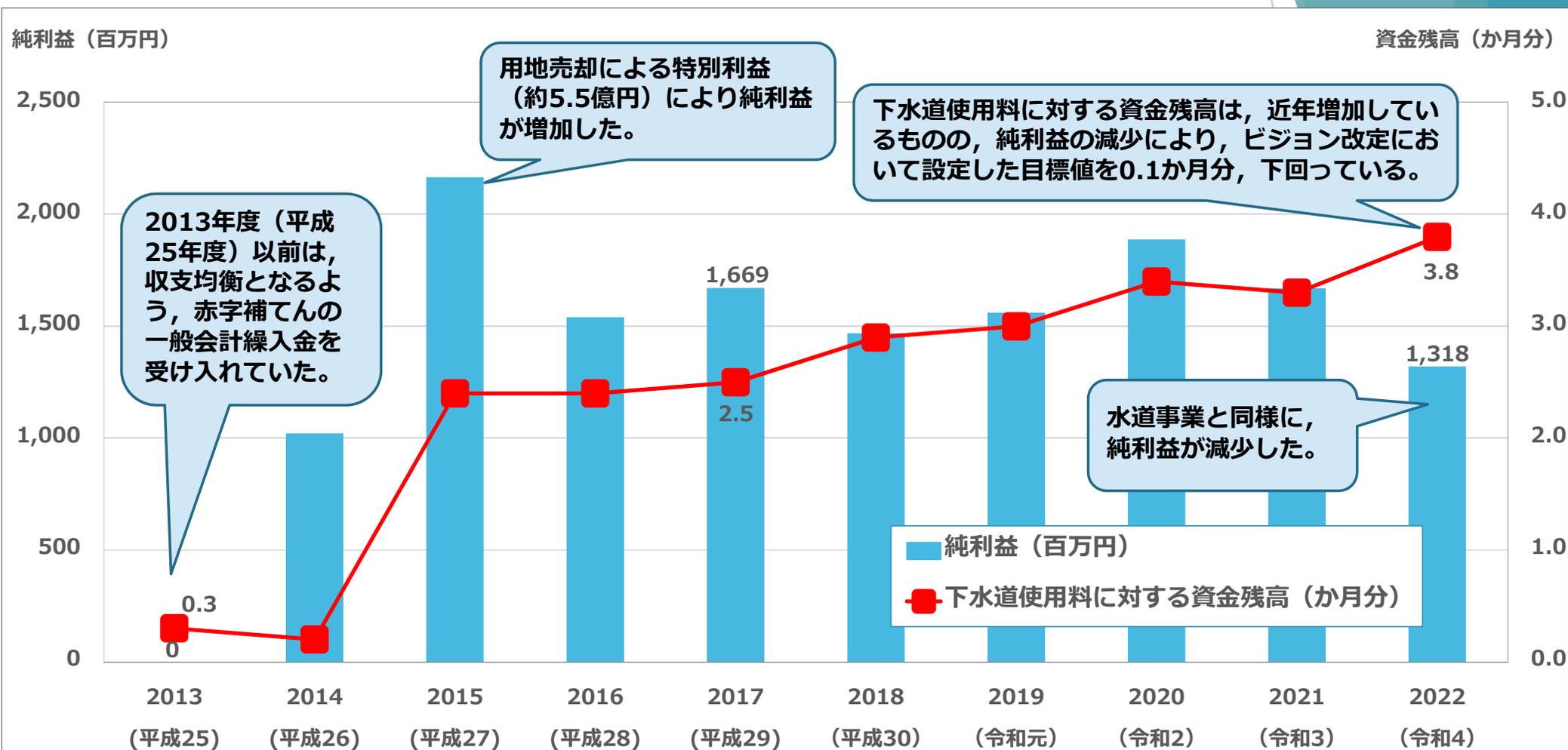
(4) 年度別の決算状況

(単位：千円)

科 目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)
事業収益	11,885,547	11,697,099	11,794,342	11,700,954	11,679,224
(うち下水道使用料)	(6,034,942)	(5,991,001)	(6,013,509)	(5,955,028)	(5,866,243)
事業費用	10,419,864	10,139,323	9,908,664	10,033,901	10,361,480
差引	1,465,683	1,557,776	1,885,678	1,667,053	1,317,744
資本的収入	4,321,953	5,026,544	4,627,392	5,878,889	9,436,067
資本的支出	9,474,624	10,339,154	9,994,291	11,400,029	14,728,310
差引	△ 5,152,671	△ 5,312,610	△ 5,366,899	△ 5,521,140	△ 5,292,243
収入総計	16,207,500	16,723,643	16,421,734	17,579,843	21,115,291
支出総計	19,894,488	20,478,477	19,902,955	21,433,930	25,089,790
差引	△ 3,686,988	△ 3,754,834	△ 3,481,221	△ 3,854,087	△ 3,974,499
補てん財源等	3,935,562	3,757,937	3,717,772	3,794,889	4,172,263
再差引	248,574	3,103	236,551	△ 59,198	197,764
前年度末資金残高	1,225,274	1,473,848	1,476,951	1,713,502	1,654,304
当年度末資金残高	1,473,848	1,476,951	1,713,502	1,654,304	1,852,068
一般会計繰入金	4,144,364	4,155,024	4,098,146	4,055,500	4,123,552

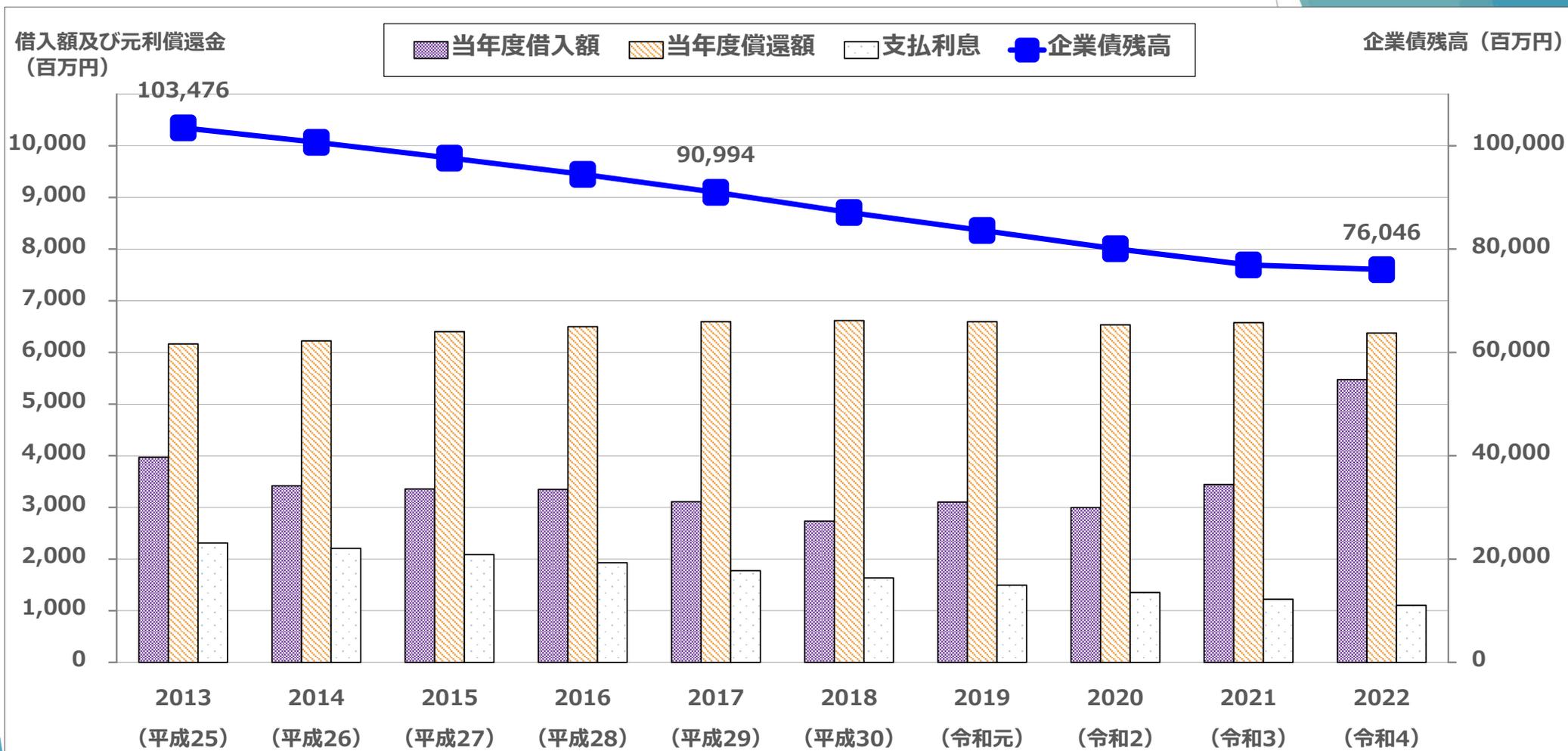
3 下水道事業の経営状況

(5) 《個別指標》当年度純利益・下水道使用料に対する資金残高の推移



3 下水道事業の経営状況

(6) 企業債・支払利息の推移

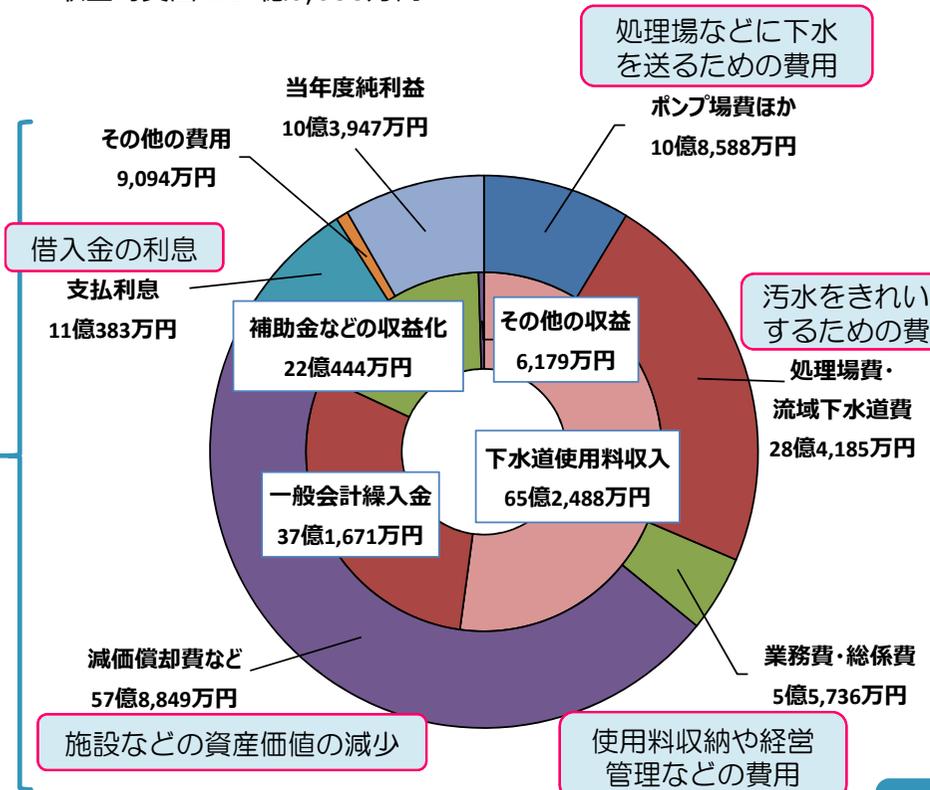


3 下水道事業の経営状況

(7) 2023年度（令和5年度）予算 収益的収支・資本的収支

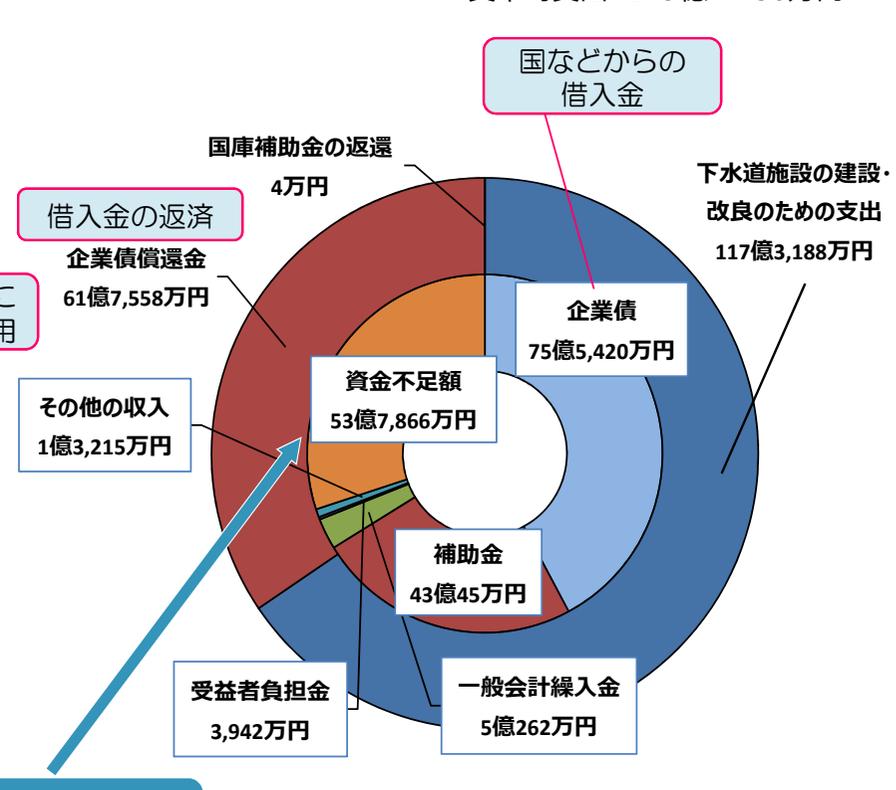
収益的収支（消費税込）

収益的収入 125億 782万円
 収益的支出 114億6,835万円



資本的収支（消費税込）

資本的収入 125億2,884万円
 資本的支出 179億 750万円



補てん財源

3 下水道事業の経営状況

(8) 2023年度（令和5年度）における主要施策

項目	事業概要	主な工事
公共下水道 (汚水) 整備事業	・快適で衛生的な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質を保全するため、計画的・効率的に整備を行う。	【総事業費】1,107,600千円 延長 約4km ・幹線管渠埋設工事 264,000千円 (川南2号幹線・川南3号幹線)
公共下水道 (雨水) 整備事業	・市街地において、大雨による浸水被害から市民の生命・財産を守り、安心・安全な生活環境を確保するため、雨水幹線や雨水ポンプ場の施設整備を行う。	・一ツ樋ポンプ場増設工事 (令和3年度～令和5年度) 754,002千円 ※「抜本的な浸水対策」は、別掲
抜本的な 浸水対策	・平成30年7月豪雨による浸水被害を受けて、降雨状況や発生要因などを検証し、河川流域ごとに国・県等と連携して浸水対策を実施する。	・手城川流域内水排除対策施設整備 (令和元年度～令和7年度) 5,145,982千円 ①蔵王雨水幹線築造工事 延長 約3km ②蔵王ポンプ場築造工事(土木工事)
下水道施設 の耐震化・ 長寿命化 対策	・防災拠点や広域避難場所から流域下水道までの管渠の耐震化と老朽化した主要な管渠の更生や処理施設の改築・更新など下水道施設の耐震化・長寿命化を行う。	・下水道管渠長寿命化工事 1,872,472千円 ・新浜ポンプ場改築事業 278,094千円 (令和4年度～令和31年度：DBO方式) ・下水道管渠耐震化工事 234,000千円

4 上下水道局における取組

(1) 行財政改革の主な取組 (1/3)

※2011年度（平成23年度）から2022年度（令和4年度）までの12年間

取組項目	実施時期	取組内容
組織・機構の見直し	2012.4	水道局と建設局下水道部を組織統合し、上下水道局を設置
	2014.3	新浜浄化センター廃止
	2015.3	出張所（東部・西部・北部・神辺）の廃止
	2020.4	局全体の再編（3部13課34担当→3部10課31担当）
給与の適正化	期間内(※)	退職手当支給率の引き下げ（2013, 2018）
		持ち家に係る住居手当等の廃止（2014.4～）
		給与制度の総合的見直しによる給料表の水準を引き下げ（2015.4～）
		特殊勤務手当の見直し（2011, 2016, 2018）
定員管理の適正化	期間内(※)	水道・工業用水道・下水道の3会計で93人削減
料金・使用料の適正化	2015.3	水道料金の見直し（基本水量制の廃止など）
		下水道使用料の改定（平均改定率：16.56%）
	2020.7	工業用水道料金の改定（平均改定率：△8.9%）
アセットマネジメントの実践	2015.11	上下水道事業のアセットマネジメント（資産管理）の導入
		※2022.3 上下水道事業のアセットマネジメント（資産管理）の改定

4 上下水道局における取組

(1) 行財政改革の主な取組 (2/3)

取組項目	実施時期	取組内容
施設の環境対策	2012.3	箕島浄水場に太陽光発電設備を設置
	2015.11	水質管理センターに太陽光発電設備を設置
	2016.3	三川ダム小水力発電施設を設置〔福山市, 広島県, 府中市の共同事業〕
民間活力の活用	2013.4~	松永浄化センターの包括委託〔2010年(平成22年)から継続実施〕
	2015.4~	営業関連業務等の包括委託「ふくやま上下水道料金センター」開設 ※2020.4 委託範囲の拡大(給排水関連窓口業務等)
		漏水修繕業務の委託範囲を拡大「ふくやま上下水道修繕センター」開設
	2017.4~	中津原浄水場外運転管理及び維持管理等の業務委託 ※2022.4 委託範囲の拡大(加圧施設維持管理業務等)
2022.10	新浜ポンプ場改築事業基本協定締結(DBO方式) ※ ※DBO方式: 設計と建設及び運営を一括して行う方式	
産学官連携の推進	2017.10~ 2022.3	福山市水道施設におけるエネルギー最適化ソリューションに関する研究の実施 (福山市立大学, J F Eエンジニアリング(株), 福山市上下水道局)
	2023.6~	工業用水道の処理プロセスにおける環境負荷低減に関する研究の実施 (福山市立大学, J F Eエンジニアリング(株), 福山市上下水道局)

4 上下水道局における取組

(1) 行財政改革の主な取組 (3/3)

取組項目	実施時期	取組内容
広域連携の推進	2016.5～	備後圏域6市2町での「水道事業における広域化・官民連携の勉強会」の開催 ※2023.5「備後圏域水道事業連携推進勉強会」へ名称変更 (構成団体は変更なし)
	2017.1～	汚泥固形燃料化施設による汚泥の共同処理(芦田川浄化センター)
	2018.4～ 2020.5	「広島県水道広域連携協議会」で広域連携の具体化に向けた検討 →2020.6「広島県水道広域連携推進方針」の策定 →2020.9 本市は、単独経営を維持する「統合以外の連携」を選択
	2019.4～	「広島県下水道事業広域化・共同化検討会」で広域化・共同化の具体化に向けた検討 →2021.3「広島県下水道事業広域化・共同化計画」の策定 →2021.4「広域化・共同化検討会」を発展改組し、 「広島県下水道事業広域化・共同化推進会議」を設置
	2019.9～	尾道市浄化センターの共同利用(2019年度一部供用開始)
	2021.4～	高西東新涯ポンプ場(尾道市)の共同利用
	2022.11～	県内水道事業体と「統合以外の連携」方策を実施 (職員研修の共同実施、情報交換会の開催)
	2023.4～	水道事業における水質管理業務の共同実施〔福山市、井原市〕

4 上下水道局における取組

(2) 第1次 上下水道事業経営審議会

① 諮問内容

◇今後の上下水道事業経営のあり方について

- ・上下水道事業経営全般〔ヒト・モノ・カネ・情報〕
- ・上下水道事業の中長期的なビジョン（経営戦略）〔国のビジョンと整合を図った計画の策定〕

② 開催状況

年 度	回	月 日	備 考
2015年度 (平成27年度)	第1回	8月 5日	委嘱状交付, 事業概要説明
	第2回	10月 27日	諮問, 事業概要説明
	第3回	1月 26日	アセットマネジメント, 今後の水需要予測と財政見通し
2016年度 (平成28年度)	第4回	4月 28日	7項目の論点を審議
	第5回	7月 25日	7項目の論点を審議
	第6回	10月 18日	7項目の論点を審議
	第7回	1月 13日	答申書(案)について 【答申書提出 2月1日】

③ 審議内容

- (1) 上下水道事業の中長期的なビジョン（経営戦略）策定
- (2) 上下水道施設の設備投資（更新・耐震化）
- (3) 下水道整備のあり方
- (4) 広報広聴のあり方
- (5) 官民連携, 広域化
- (6) 工業用水道事業会計の資金の活用
- (7) 水道料金, 下水道使用料のあり方

4 上下水道局における取組

(3) 第2次 上下水道事業経営審議会（1/2）

① 諮問内容

◇水道料金及び下水道使用料のあり方について

- ・料金体系等が使用実態に応じたものになっているか
- ・将来の更新投資に必要な資金を確保するための資産維持費について

② 開催状況

年 度	回	月 日	備 考
2017年度 (平成29年度)	第1回	3月 20日	委嘱状交付, 諮問, 経営状況等説明
2018年度 (平成30年度)	第2回	7月 23日	4項目の論点を審議
	第3回	10月 30日	4項目の論点を審議
	第4回	1月 22日	答申書(案)について 【答申書提出 3月28日】

③ 審議内容

- (1) 用途別から口径別への移行について
- (2) 基本料金と従量料金の割合について
- (3) 段階別従量料金の累進度について
- (4) 資産維持費について

4 上下水道局における取組

(3) 第2次 上下水道事業経営審議会 (2/2)

④ 答申内容

用途別から口径別への移行について

本市は、用途別料金体系(一般用、公衆浴場用、臨時用)であり、一般用の基本料金は大口使用者も小口使用者も同額であるため、負担の公平性と料金体系の明確性が確保できる口径別料金体系への移行を検討する必要がある。

基本料金と従量料金の割合について

今後の経営の安定性を確保するためには、料金収入に占める基本料金の割合を高めるなど、基本料金と従量料金の配分について見直す必要がある。

段階別従量料金の累進度について

人口減少等による水需要の減少にも対応するため、従量料金の累進度を緩和するなど、経済状況や使用水量の増減に大きく影響されない料金制度に見直すことを検討する必要がある。

資産維持費について

管路及び施設の耐震化や企業債の償還等に必要な内部留保資金を確保するため、新たに資産維持費を総括原価に算入する検討が必要である。

※見直しにあたっては、市民活動や企業活動への影響に配慮することはもとより、上下水道事業の経営状況や見直しの考え方などについて十分理解していただけるよう努めるとともに、本市の料金・使用料が最適なものとなるよう、慎重に検討していく。

4 上下水道局における取組

(4) 第3次 上下水道事業経営審議会 (1/5)

① 諮問内容

- ◇福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の見直し及び後期実施計画の策定について
- ・これまでの取組を検証し，計画と実績のかい離の原因を分析したうえで，後期実施計画を策定
 - ・市の全体計画との整合を図り，急速に変化する社会環境に対応できるよう中長期ビジョンを見直し

② 開催状況

年度	回	月日	備考
2020年度 (令和2年度)	第1回	3月16日	委嘱状交付，諮問，経営状況等説明 中長期ビジョン（経営戦略）前期実施計画の実績報告 中長期ビジョン（経営戦略）見直しなどの考え方を説明
2021年度 (令和3年度)	第2回	6月30日	3項目の論点を審議
	第3回	10月28日	3項目の論点を審議
	第4回	12月20日	答申書（案）について 【答申書提出 1月24日】

③ 審議内容

- (1) 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の見直し
- (2) 投資・財政計画（財政見直し）
- (3) 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）後期実施計画の策定

4 上下水道局における取組

(4) 第3次 上下水道事業経営審議会 (2/5)

④ 答申内容

1 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の見直し（1/2）

(1) 前期実施計画の取組評価

「福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」の「基本方針：4本の柱」に基づく具体的な取組として、39の「取組項目」と78の「実施事業」を掲げているが、これまでの4年間で、事業の進捗は概ね予定通りであったことなどから、**着実に事業が実施されていると評価する。**

「後期実施計画」の計画期間内においても、**毎年度、計画の達成度を評価した上で、その結果を予算編成や次期計画の策定等に反映すべきである。**

(2) 計画と実績のかい離の分析

中長期的な収支計画である「投資・財政計画」について、今回の「福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」の見直しに合わせて、**現時点で可能な限り予見性を高めた投資・財源試算の見直しを行い、後期5年間の「投資・財政計画」に反映すべきである。**

(3) 取組の基底となる5つの視点

将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を確立するためには、**次に掲げる5つの視点を基底に据えて、取り組むべきである。**

- ① 防災・減災、強靱化対策の加速化、② 危機管理体制の強化、③ デジタル化の推進、
- ④ 広域連携の推進、⑤ 抜本的な浸水対策

4 上下水道局における取組

(4) 第3次 上下水道事業経営審議会 (3/5)

④ 答申内容

1 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の見直し（2/2）

(4) 上下水道事業の貢献度・理解度の向上に向けて

ア SDGsの推進

上下水道事業においても、SDGsの理念に沿った取組を推進し、それぞれの取組とSDGsの関連性を明らかにすべきである。

イ 効果的な広報広聴活動

これまでの市民意識調査などから、上下水道事業への認識が未だ不十分であることが浮き彫りとなっている。

そのため、対象者に見合った広報内容や広報手段を検討するなど、より効果的な広報広聴活動に取り組むべきである。

また、オンラインやSNSなど新たな媒体を活用した情報発信についても検討されたい。

4 上下水道局における取組

(4) 第3次 上下水道事業経営審議会 (4/5)

④ 答申内容

2 投資・財政計画 (財政見通し)

(1) 将来予測の算出方法

収入の根幹である水道料金や下水道使用料の算定に当たっては、最新の人口推計データの活用はもとより、業態ごとに使用状況を把握するなど、**より実態が反映される予測の方法を採用すべき**である。近年は、市民生活や社会経済活動の変容もあることから、新たな要因にも留意しながら、**より精度の高い推計となるよう取り組まれない。**

(2) 経営指標の設定

持続可能な経営基盤の確立に向けて、他事業体との比較などから本市の特徴、問題点を把握した上で、**目指すべき目標を経営指標として設定するとともに、設定の根拠や考え方なども含めて明らかにすべき**である。

(3) 中長期的な経営状況の展望について

2026年度(令和8年度)までの「投資・財政計画(財政見通し)」では、各事業ともに、大きな社会環境の変化がない限りは、当面、健全経営を維持できる見通しとなっているが、上下水道事業の中長期的な経営環境は、厳しい状況が続いていくことが見込まれている。

より一層の経営健全化に取り組むとともに、そうした状況について市民が理解できるよう見せ方も含めて検討されたい。

4 上下水道局における取組

(4) 第3次 上下水道事業経営審議会 (5/5)

④ 答申内容

3 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の後期実施計画の策定

(1) 防災・減災，強靱化対策の加速化

上下水道は，災害時においても機能を維持しなければならないことから，**施設の耐震化・耐水化や管路の更新などの施設整備を積極的に行い，強靱化対策を加速化すべきである。**

(2) 危機管理体制の強化

事故や災害発生時における市民生活や社会経済活動等への影響を最小限にとどめるため，**災害時であっても，事業を継続するための仕組みづくりや，迅速に復旧が可能となる体制の確立など危機管理体制を強化すべきである。**

(3) デジタル化の推進

市民の利便性の向上やサービスの充実，行政事務の効率化の実現に向けて，**デジタル技術の活用による「デジタル化の推進」に取り組むべきである。**

(4) 広域連携の推進

(水道事業) 備後圏域をはじめ，**他事業体との効果的な事業連携を検討・実施すべきである。**

(下水道事業) **更なる施設の広域化や維持管理の共同化などに取り組むべきである。**

(5) 抜本的な浸水対策

近年，頻発する集中豪雨に備え，引き続き，国・県等と連携し，流域ごとの浸水対策に係る行程表(ロードマップ)に基づき，**「抜本的な浸水対策」を着実に取り組むべきである。**

ご清聴ありがとうございました！



水道は2025年(令和7年)に
通水100周年を迎えます！

ばらのまち福山 イメージキャラクター「ローラ」

第4次福山市上下水道事業経営審議会
(第1回)

**福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）
後期実施計画の進捗状況について**
— 2022年度（令和4年度）の取組状況 —

2023年（令和5年）10月31日
福山市上下水道局 財務経営課

目次

- 1 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）とは
- 2 2022年度（令和4年度）の取組状況
 - (1) 主要指標
 - (2) 5つの視点+広報広聴活動の推進
- 3 まとめ

本日の報告について

第3次福山市上下水道事業経営審議会の答申を受けて、
2022年（令和4年）3月に福山市上下水道事業中長期ビジョン
（経営戦略）を改定し、後期実施計画を策定した。



今回、後期実施計画の初年度である2022年度（令和4年度）
の取組を中心に、進捗状況を報告する。

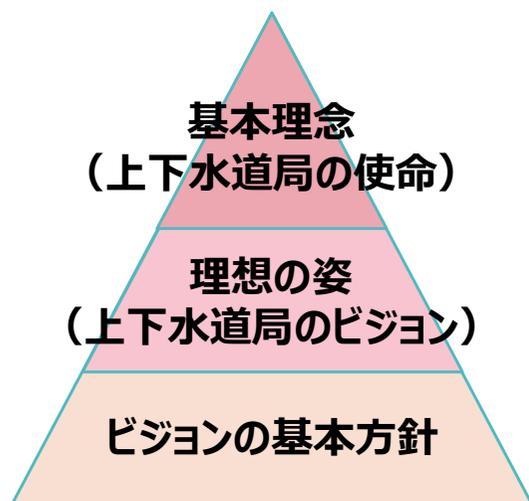
1 福山市上下水道事業 中長期ビジョン（経営戦略）とは

福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）

[上下水道事業と関わりの深いSDGs]



ビジョン・・・上下水道事業がめざす将来像や目標を示したもの



➡ 質の高い上下水道サービスを提供し続け、心の豊かさが実感できるまちの実現に貢献する

➡ 将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を目指す

➡ 4本の柱

1 安心・安全でしなやかな上下水道	➡ 16の施策
2 環境にやさしい上下水道	
3 市民に信頼される身近な上下水道	
4 将来にわたって持続可能な上下水道	

※計画期間 2017年度（平成29年度）～2026年度（令和8年度）

福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）後期実施計画

実施計画…

ビジョンに掲げる理想の姿

「将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全で
しなやかな上下水道事業を目指す」

を実現するため、年次計画や具体的取組、目標を掲げ、取組項目ごとの
進捗状況や達成度を管理していくもの

中長期ビジョン
(2017年度～2026年度)

前期実施計画 (2017年度～2021年度)

後期実施計画 (2022年度～2026年度)

福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）後期実施計画

柱1 安心・安全でしなやかな上下水道

- 施策 (1) 水質の安全性・信頼性の確保
- (2) 計画的・効率的な施設整備
- (3) 地震等の災害に強い管路や施設の整備
- (4) 危機管理体制の確立

15の取組項目・35の実施事業

柱2 環境にやさしい上下水道

- 施策 (1) 循環型社会の構築
- (2) 省エネルギー対策の推進
- (3) 公共用水域（芦田川等）の水質保全

6の取組項目・11の実施事業

柱3 市民に信頼される身近な上下水道

- 施策 (1) 広報広聴活動の推進
- (2) 市民満足度の向上
- (3) 多様な意見を事業経営に反映

4の取組項目・6の実施事業

柱4 将来にわたって持続可能な上下水道

- 施策 (1) 経営の効率化及び財務体質の強化
- (2) アセットマネジメント（資産管理）の実践
- (3) 上下水道施設の規模最適化
- (4) 職員の人材育成・技術継承
- (5) 多様な主体との連携の推進
- (6) 新たな視点に立った事業運営

13の取組項目・24の実施事業

※後期実施計画では、具体的な取組として合計で38の「取組項目」と76の「実施事業」を掲げている。

取組の基底となる5つの視点

- ・取組の基底となる5つの視点とは
…第3次福山市上下水道事業経営審議会で示された考え方

2021年（令和3年）3月16日 諮問

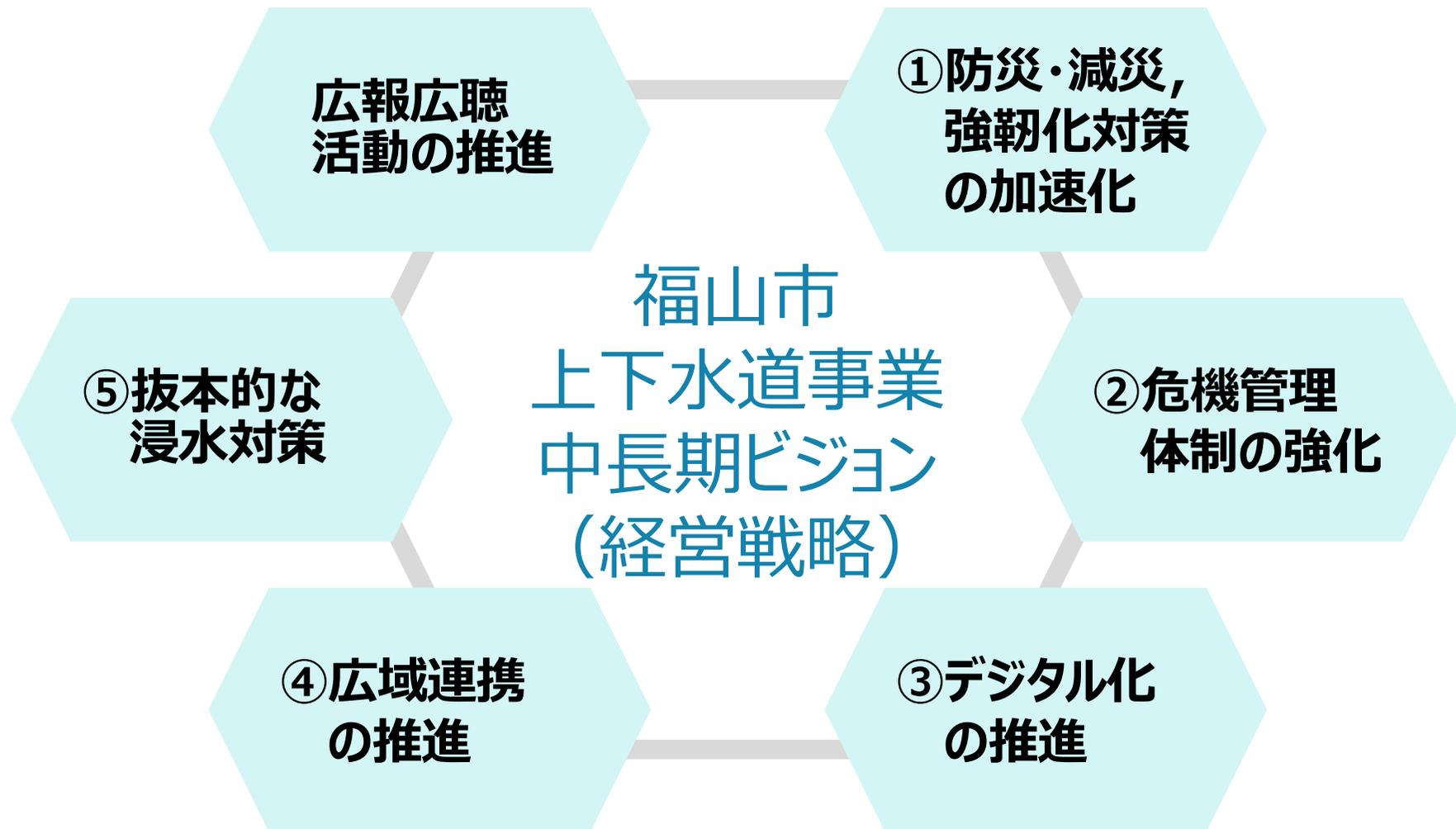
「福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の見直し及び後期実施計画の策定について」を、福山市上下水道事業経営審議会へ諮問



2022年（令和4年）1月24日 答申

答申において、「上下水道事業を取り巻く環境をはじめ、福山市や、国・県の方向性、市民意識調査等による市民ニーズなどを踏まえ、将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を確立するためには、次に掲げる**5つの視点を基底に据えて、取り組むべき**」と示された。

取組の基底となる 5つの視点



2022年度（令和4年度）の 取組状況

（1）主要指標

（2）5つの視点+広報広聴活動の推進

2022年度（令和4年度）の 取組状況

（1）主要指標

（2）5つの視点+広報広聴活動の推進

主要指標の達成状況 (水道事業・工業用水道事業)

会計区分	主要指標	2022年度		最終年度 (2026年度)	判断の基準
		目標	実績		
水道事業	I - 1 料金回収率	100%以上 を維持	104.7%	100%以上 を維持	高い方が良い
	I - 2 基幹管路の耐震化率	75.1%	※ 74.8%	77.6%	高い方が良い
	I - 3 浄水施設の耐震化率	44.4%	44.4%	45.9%	高い方が良い
	I - 4 配水池の耐震化率	65.7%	65.8%	69.0%	高い方が良い
	I - 5 有収率	95.4%	※ 94.9%	96.0%	高い方が良い
	I - 6 給水人口一人当たり企業債現在高	7.5万円	7.4万円	6.9万円	低い方が良い
工業用 水道事業	II - 1 料金回収率	100%以上 を維持	115.5%	100%以上 を維持	高い方が良い

主要指標の達成状況（下水道事業）

会計区分	主要指標	2022年度		最終年度 (2026年度)	判断の基準
		目標	実績		
下水道事業	Ⅲ-1 公共下水道人口普及率	76.0%	76.3%	77.4%	高い方が良い
	Ⅲ-2 水洗化率	95.2%	95.5%	95.8%	高い方が良い
	Ⅲ-3 都市浸水対策達成率	55.3%	55.3%	57.9%	高い方が良い
	Ⅲ-4 経費回収率	100%以上 を維持	112.8%	100%以上 を維持	高い方が良い
	Ⅲ-5 重要幹線等の耐震化率	49.9%	※ 49.8%	52.4%	高い方が良い
	Ⅲ-6 処理区域内人口一人当たり企業債現在高	22.3万円	21.7万円	24.1万円	低い方が良い

主要指標の説明は、「福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」2022年3月改定版 p.52～53に記載

2022年度（令和4年度）の 取組状況

(1) 主要指標

(2) 5つの視点+広報広聴活動の推進

5つの視点における取組状況

- ▶ ① 防災・減災，強靱化対策の加速化
- ② 危機管理体制の強化
- ③ デジタル化の推進
- ④ 広域連携の推進
- ⑤ 抜本的な浸水対策

2022年度（令和4年度）の取組状況

①防災・減災，強靱化対策の加速化



取組概要

- ・水道 水道管路の耐震化・水道施設の強靱化（配水池の土砂崩落対策等）を実施
- ・工業用水道 工業用水道管路の更新を実施
- ・下水道 下水道管路・下水道施設の耐震化や更新等を実施

Topics



◀ 法面の角度：約40度
(着工前)

▼ 法面の角度：29度
(完成)



大雨時には法面の土砂崩落が懸念されたことから、法面の勾配を緩くし、安全な状態にする工事を行いました。

▲ 水道施設の強靱化
(明王台配水池法面崩壊対策工事)



◀ 工業用水道管路の強靱化
配水管布設工事
(新浜町及び引野町)
φ900



中津原浄水場と箕島浄水場を結ぶ連絡管を更新しています。

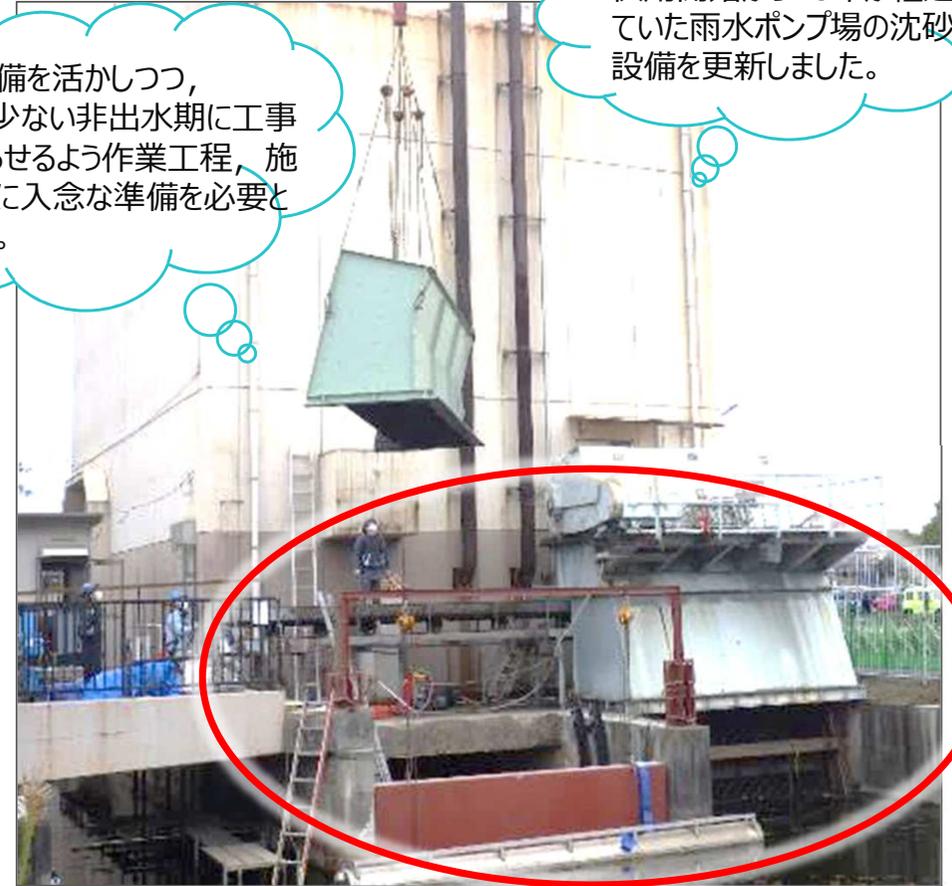
Topics

既設管の内部に帯状の更生材を貼り付け、下水道管路の強度・耐震性を向上させるものです。



既存設備を活かしつつ、降雨の少ない非出水期に工事を終わらせるよう作業工程、施工方法に入念な準備を必要としました。

供用開始から48年が経過していた雨水ポンプ場の沈砂池設備を更新しました。



▲ 下水道管路の強靱化（下水道管渠耐震化工事）

▲ 下水道施設の強靱化
（大山ポンプ場沈砂池設備更新工事）

5つの視点における取組状況

- ① 防災・減災，強靱化対策の加速化
- ▶ ② **危機管理体制の強化**
- ③ デジタル化の推進
- ④ 広域連携の推進
- ⑤ 抜本的な浸水対策

2022年度（令和4年度）の取組状況

②危機管理体制の強化



取組概要

- ・自主防災組織と連携するなど，市民と協働した訓練を実施
- ・福山市下水道管路管理業協同組合と「災害時における復旧支援協力に関する協定」を締結（6／1）
- ・給水車（1.7 t），仮設水槽の購入（5基）

Topics



備後圏域市町，松江市，福山
管工事協同組合，第一環境株と
協働で実施しました。

▲ 訓練の様子（福山市上下水道局防災訓練）（1/16）

Topics

災害や事故などへの備えをより強化するため、給水車を1台購入しました。このことにより、福山市上下水道局が保有する給水車は合計で4台となりました。



AT車、車両総重量を5t未満とすることで、より多くの職員が運転できるようになりました。

▲ 給水車 (1.7 t)



仮設水槽は応急給水場所に配置することで、効率的に給水を行うことができます。2021年度から5年間で40基購入する計画としています。

▲ 仮設水槽

5つの視点における取組状況

- ① 防災・減災，強靱化対策の加速化
- ② 危機管理体制の強化
- ▶ ③ **デジタル化の推進**
- ④ 広域連携の推進
- ⑤ 抜本的な浸水対策

2022年度（令和4年度）の取組状況

③ デジタル化の推進

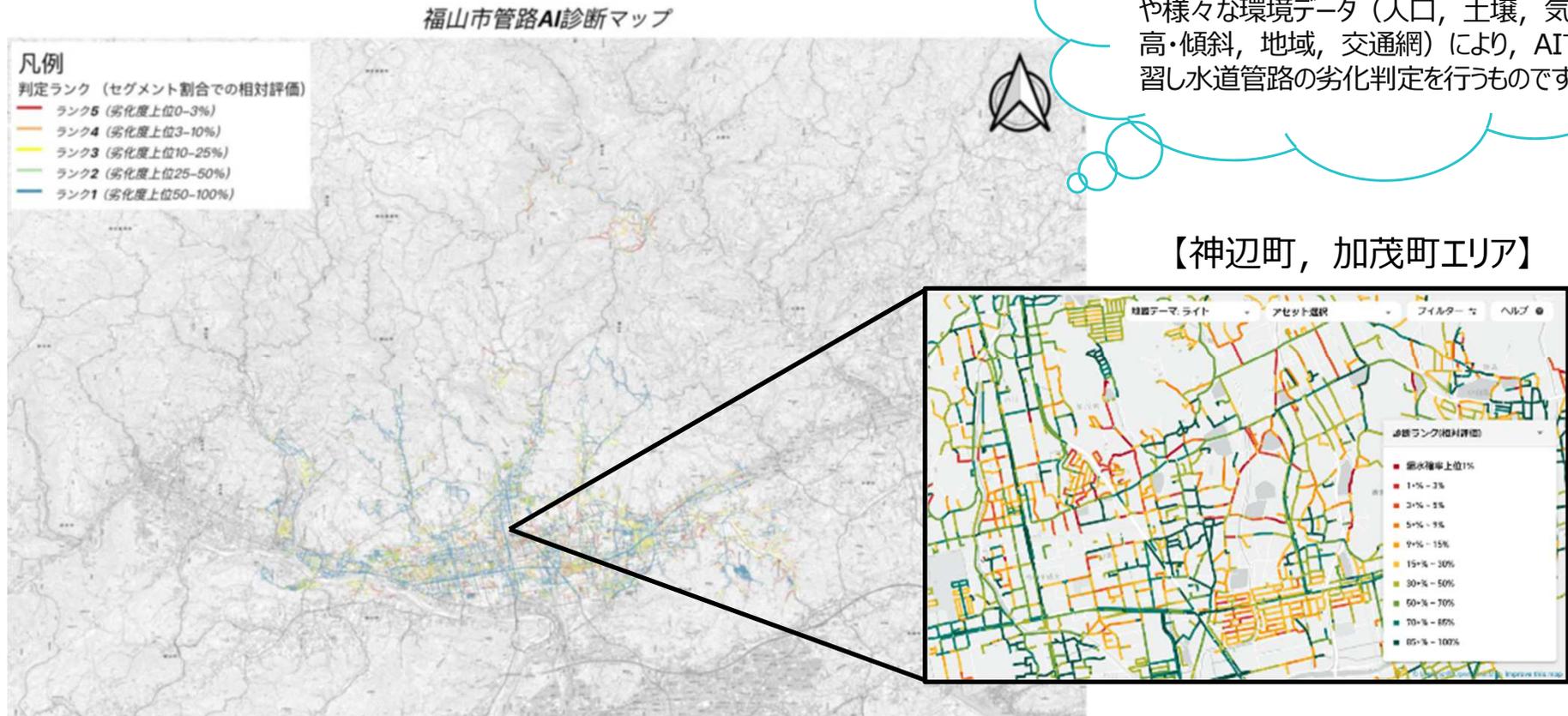


取組概要

- ・AIを活用した水道管路の劣化予測診断
- ・スマートフォン決済の導入（7／1） 水道料金・下水道使用料
- ・水道スマートメーターによる自動検針業務実証実験の協定書締結（2／8）

Topics

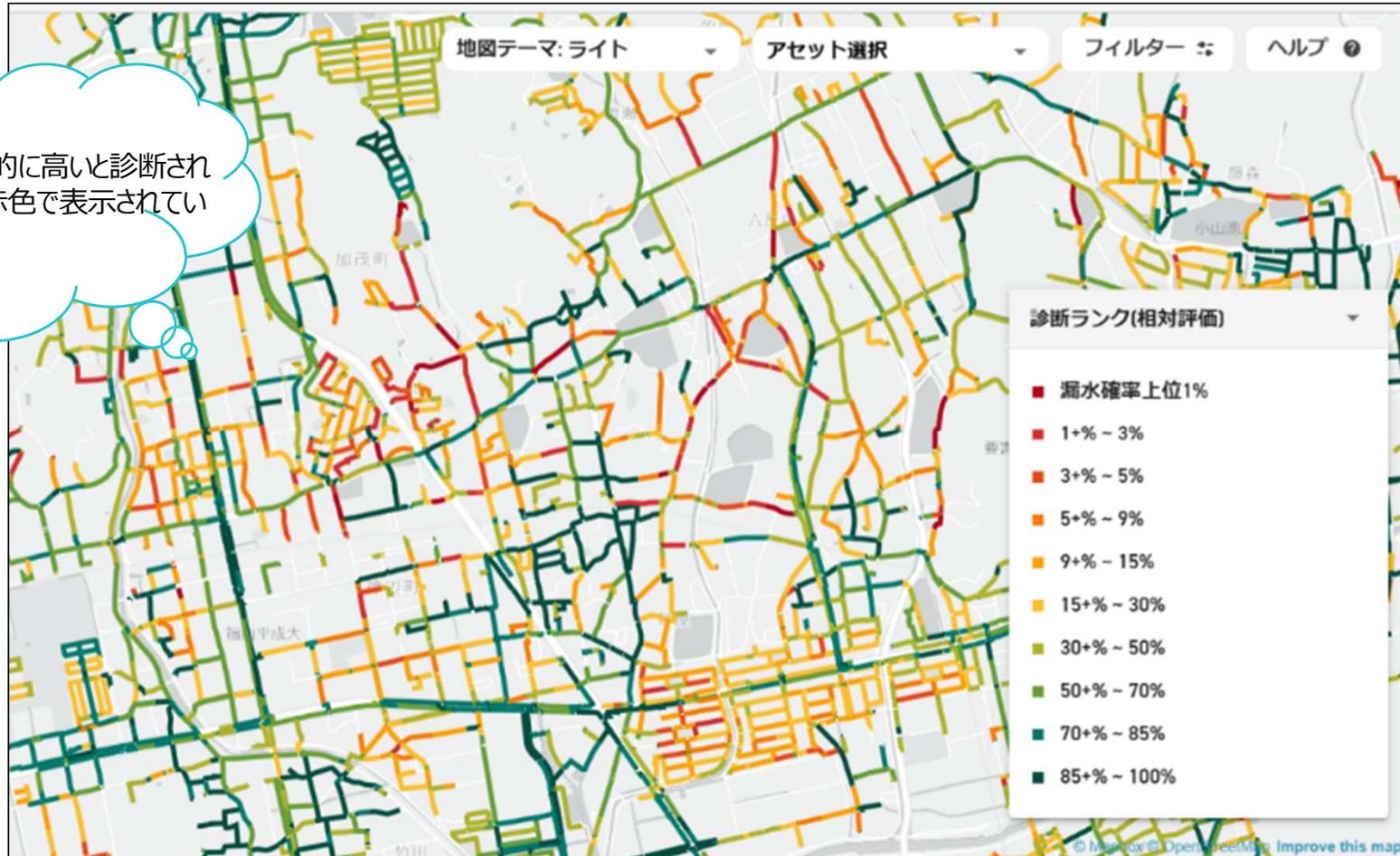
試験掘削などの物理的調査を行わずに、管路情報（布設年度、管種、口径、漏水履歴）や様々な環境データ（人口、土壌、気象、標高・傾斜、地域、交通網）により、AIで機械学習し水道管路の劣化判定を行うものです。



▲ AIを活用した水道管路の劣化予測診断

Topics

漏水確率が相対的に高いと診断された路線は、濃い赤色で表示されています。



▲ 神辺町，加茂町エリアの拡大図（漏水確率別（相対評価））

5つの視点における取組状況

- ① 防災・減災，強靱化対策の加速化
- ② 危機管理体制の強化
- ③ デジタル化の推進
- ▶ ④ **広域連携の推進**
- ⑤ 抜本的な浸水対策

2022年度（令和4年度）の取組状況

④ 広域連携の推進



取組概要

- 備後圏域及び他事業者との連携
 - … 備後圏域における勉強会（年4回開催）等の実施
 - 広島市・呉市と三都市事務情報交換会を開催（1/27）
- 県内上下水道事業の広域化
 - …（水道）「統合以外の連携」として
研修の共同実施，情報交換会（1/27）等
 - （下水道）施設の広域化等について検討

Topics

県内の主要3都市（広島市・呉市・福山市）で情報共有を行い、水道事業に係る課題解決や連携の強化を図るものです。



普段の業務の中で、「疑問が生じた時」「情報交換がしたい時」に備後圏域各市町の実務担当者で気軽に相談・情報共有を行っています。



▲ 三都市（広島市・呉市・福山市）事務情報交換会

◀ （備後圏域）実務担当者会議
議題：遠方監視装置について

5つの視点における取組状況

- ①防災・減災，強靱化対策の加速化
- ②危機管理体制の強化
- ③デジタル化の推進
- ④広域連携の推進
- ▶ ⑤抜本的な浸水対策

2022年度（令和4年度）の取組状況

⑤ 抜本的な浸水対策



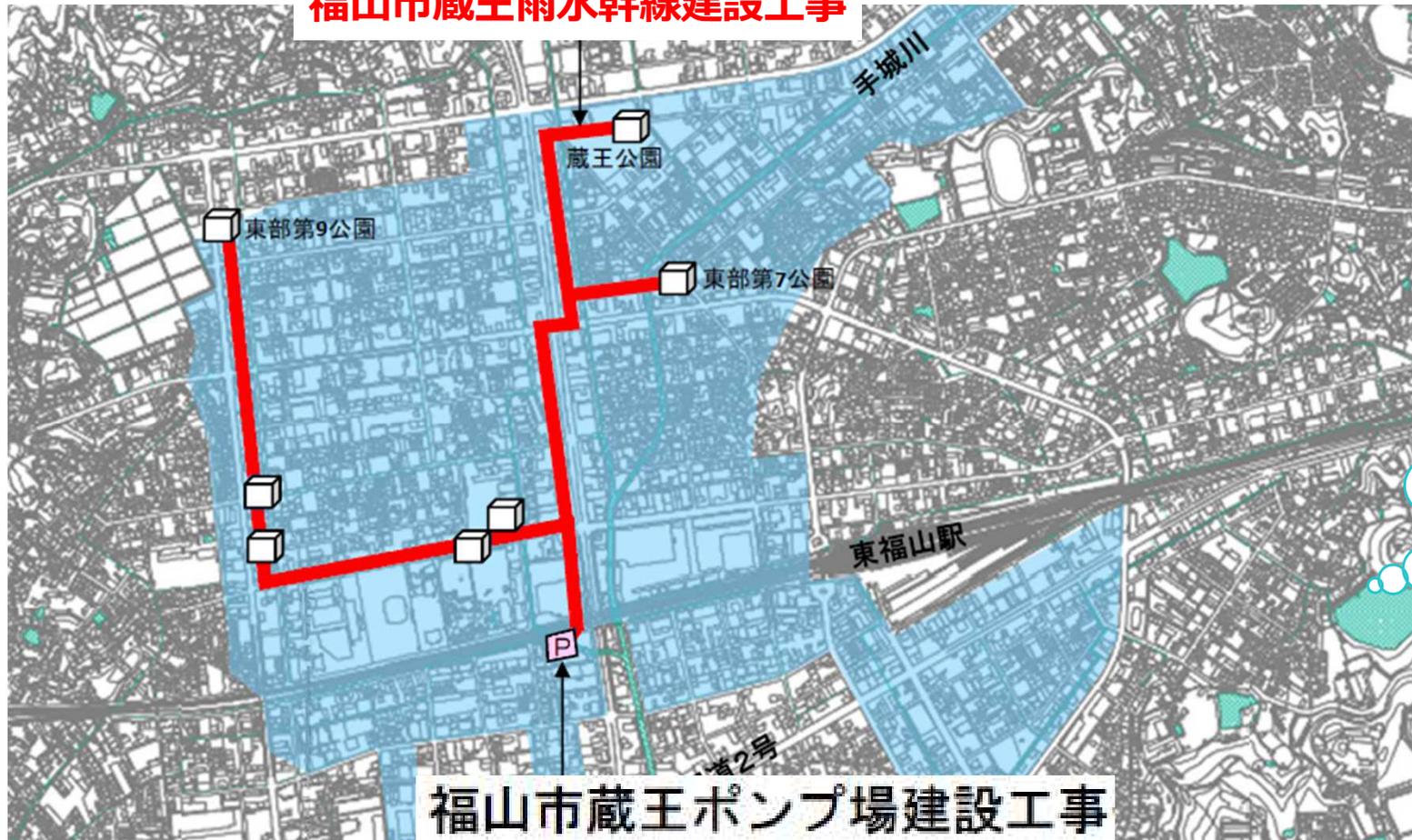
取組概要

「平成30年7月豪雨」では、市域全体で約2,000haが浸水するなど、甚大な被害を受けたことから、「二度と床上浸水被害は起こさない」という強い決意のもと、国・県等と連携し概ね5年間の「抜本的な浸水対策」に集中的に取り組んでいます。

- ・内水排除対策施設整備（蔵王雨水幹線・蔵王ポンプ場）
- ・雨水ポンプ場の整備
（千田ポンプ場，戸手ポンプ場，森脇ポンプ場）
- ・雨水幹線・枝線の整備（大津野1号雨水枝線）
- ・遊水池掘浚（手城ポンプ場）
- ・止水板設置補助（2022年度は7件実施）

Topics

福山市蔵王雨水幹線建設工事



- : 平成30年7月豪雨
における浸水区域
- : 取水口

手城川流域における内水排除対策施設整備として、雨水幹線及びポンプ場の整備を行っています。

※内水排除対策
…近年多発する集中豪雨や都市化の進展などに伴う内水氾濫から市民の安全を守るため、市街地に降った雨水を速やかに排除する取組

Topics



◀ 蔵王雨水幹線
(工事中の様子)



蔵王ポンプ場 (完成予想図) ▶

2022年度（令和4年度）の取組状況

広報広聴活動の推進における 取組状況

2022年度（令和4年度）の取組状況

広報広聴活動の推進



取組概要

- ・福山市上下水道局YouTubeチャンネルの開設
- ・デザインマンホール蓋の設置（福山城＋カープ坊や）
- ・マンホールカードの作成
- ・デジタルサイネージの活用

Topics

新たな広報手法として、動画やデジタルサイネージなど、ターゲットごとに媒体や伝えたい内容を絞った上で、情報を発信していくことを柱に据え、重点的に取り組んでいます。



▲ YouTube公式チャンネル



▲ デジタルサイネージ（福山市役所市民課，東町）

3 まとめ

3 まとめ

- (1) 主要指標…… 計画数値に達することができなかったものはあるが、概ね予定通り実施。
- (2) 5つの視点… 事業の一部遅れやコロナ禍による実施方法の変更等はあるが、概ね予定通り実施。



将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を確立するため、引き続き、「福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」に基づく事業の健全経営に取り組めます。

ご清聴ありがとうございました。